

目 次

まえがき	1
柴田 賢 (名古屋大・理, 年代測定センター)	
(1) 名古屋大学タンデロン加速器質量分析計シンポジウム 「南九州の火山噴火と遺跡の年代をさぐる」 —加速器質量分析計による ¹⁴ C年代測定と考古編年, 古環境に関する研究—	
1. シンポジウム開催の趣旨	3
中村俊夫 (名古屋大・年代測定センター) 成尾英仁 (串木野高) 奥野 充 (名古屋大・人間情報)	
2. 加速器質量分析法による ¹⁴ C年代測定の現状と考古学試料への応用 —古代鉄の年代測定への応用—	6
中村俊夫 (名古屋大・年代測定センター)	
3. 加速器質量分析法による文化財資料の ¹⁴ C年代測定	21
小田寛貴 (名古屋大・理)	
4. 文献から見る平安時代の開聞岳噴火	31
永山修一 (ラ・サール学園)	
5. 南九州の火山灰と土器型式 —アカホヤ火山灰以前を中心として—	39
桑畑光博 (都城市教委)	
6. 南九州の火山灰と土器型式 —アカホヤ火山灰以降—	48
東 和幸 (鹿児島県埋文センター)	
7. 開聞岳の噴火災害 —橋牟礼川遺跡を中心に—	60
成尾英仁 (串木野高)・下山 覚 (指宿市教委)	
8. 桜島火山の噴火史	70
小林哲夫・江崎真美子 (鹿児島大・理)	
9. 桜島火山歴史溶岩の考古地磁気	82
上野宏共 (鹿児島大・教養) 村岡慶子・小林哲夫 (鹿児島大・理)	

10. 南九州の第四紀末テフラの加速器¹⁴C年代（予報） 89
 奥野 充（名古屋大・人間情報）
11. 南九州における最終氷期最盛期以降の海水準変化にともなう 110
 古環境変化と火山噴火
 森脇 広（鹿児島大・法文）
12. ボーリングコア試料の測定年代に基づく鹿児島沖積平野の形成 117
 横田修一郎（鹿児島大・理）
 奥野 充（名古屋大・人間情報）
13. 南九州の植生と古環境 125
 -植物珪酸体分析による検討-
 杉山真二（株古環境研究所）

(2) 名古屋大学加速器質量分析計業績報告

1. 名古屋大学タンデトロン加速器質量分析計の現状（1995年度）と 128
 加速器年代測定システム（タンデトロン2号機）の設置準備
 中村俊夫・池田晃子・太田友子（名古屋大・年代測定センター）
 柴田 賢（名古屋大・理，年代測定センター）
2. 埋立処分場から発生するメタンの炭素同位体比測定 146
 伊藤誠介・間瀬順一・森泉 純・飯田孝夫・池田幸正（名古屋大・工）
 永峰康一郎（名古屋大・人間情報）
3. タイとシベリアの湿地及び水田から生成されるメタンの 155
 同位体組成
 中川書子・吉田尚弘（名古屋大・大気水圏研）
4. 西七島海嶺域の半遠洋性堆積物の¹⁴C年代 160
 沢田 健・半田暢彦（名古屋大・大気水圏研）
5. 炭素・窒素の安定・放射性同位体組成から見た海洋沈降粒子 168
 有機物の分解過程
 中塚 武・半田暢彦・松本英二（名古屋大・大気水圏研）
 杉本多津宏（トヨタ自動車）
 今泉茂巳（岐阜県庁）
 原田尚美（日本海洋科学技術センター）
6. 浜名湖における沈降粒子について 184
 -炭素同位体比からのアプローチ-
 小栗一将・松本英二（名古屋大・大気水圏研）
 日野明德・黒倉 寿・岡本 研（東京大・農）

7. 浜名湖周辺の津波堆積物から探る過去の東海沖地震 193
西仲秀人・熊谷博之・奥田 隆・鳥居龍晴・高野雅夫 (名古屋大・理)
中村俊夫 (名古屋大・年代測定センター)
8. オーストラリア南東部Shoalhaven川低地の地形と沖積層 204
海津正倫 (名古屋大・文)
Colin Woodroffe・Melany Buman (University of Wollongong)
Martin Gibling (Dalhousie University)
9. ^{14}C 年代からみた北海道北部海岸低地における完新世泥炭の 209
平均堆積速度
大平明夫 (名古屋大・文)
10. 矢作川下流低地における縄文海進期以降の陸化の進行 221
川瀬久美子 (名古屋大・文)
11. Preliminary Results of Trenching on the Digidig Fault, 229
North Central Luzon Island, Philippines
J. A. Dalogdig・N. M. Tungol (PHIVOLCS)
佐藤比呂志 (東京大・地震研)
中田 高 (広島大・文)
中村俊夫 (名古屋大・年代測定センター)
12. 房総半島, 夷隅川下流の3万年前に形成された 236
海成段丘の ^{14}C 年代とその意義
菊地隆男・鈴木毅彦・桑原拓一郎 (都立大・理)
奥野 充 (名古屋大・人間情報)
中村俊夫 (名古屋大・年代測定センター)
13. 五島列島, 鬼岳火山群基底の海成更新統 243
長岡信治 (長崎大・教育)
松岡数充 (長崎大・教養)
松島義章 (神奈川県立博物館)
奥野 充 (名古屋大・人間情報)
中村俊夫 (名古屋大・年代測定センター)
14. ルーマニア, Ciomadul火山の最終噴火の軽石質火砕流中の 252
炭化木片の ^{14}C 年代
守屋以智雄 (金沢大・文)
奥野 充 (名古屋大・人間情報)
中村俊夫 (名古屋大・年代測定センター)
小野晃司 (応用地質(株))
Alexandru Szakacs・Ioan Seghedi (Inst. Geol. Geofi.)

15. 資料 関東地方～東北地方南部の示標テフラの諸特徴・・・256
 -とくに御岳第1テフラより上位のテフラについて-
 早田 勉 (株)古環境研究所)
16. 宮古島産旧象化石ならびに東シナ海・瀬戸内海の海底・・・268
 から採取された哺乳類化石の加速器¹⁴C年代
 大塚裕之 (鹿児島大・理)
 奥野 充 (名古屋大・人間情報)
 太田友子・中村俊夫 (名古屋大・年代測定センター)
17. 岐阜県瑞浪市に分布する釜戸層から産したコハクの¹⁴C年代・・・276
 柄沢宏明 (瑞浪市化石博物館)
 森 忍 (名古屋大・年代測定センター)
18. 黒笹古窯跡出土木材の材質・・・278
 米延仁志 (鳴門教育大・学校教育)
 木方洋二 (名古屋大・農・名誉教授)
 池田晃子 (名古屋大・年代測定センター)
19. 樹木年輪を利用した最終氷期以後の大気二酸化炭素の・・・284
 炭素安定同位体組成の移り変わりとグローバルバイオマスの推定
 青木 浩 (名古屋大・理)
 米延仁志 (鳴門教育大・学校教育)
 池田晃子・中村俊夫 (名古屋大・年代測定センター)
 和田秀樹 (静岡大・理)
20. 微量試料による酸素・炭素安定同位体組成について・・・300
 青木 浩 (名古屋大・理)
 池田晃子 (名古屋大・年代測定センター)
21. 加速器質量分析計による¹⁴C/¹³C比測定における同位体効果の・・・310
 補正 (Ⅱ) -t¹⁴CとD¹⁴Cとの関係式についての問題
 小田寛貴 (名古屋大・理)
- (3) 名古屋大学加速器質量分析計を利用して行われた学部学生の・・・321
 卒業論文および大学院博士課程前期・後期の修了論文リスト
 1995 (平成7) 年度